

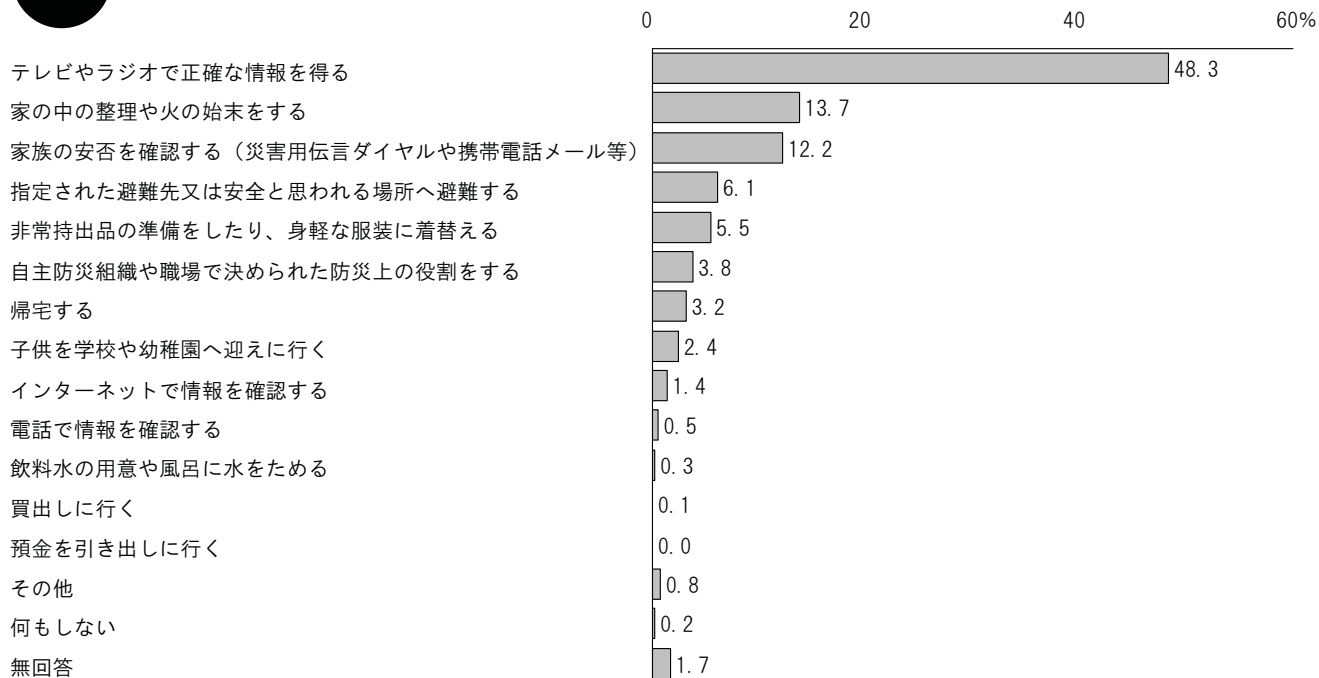
突然強い揺れを感じる大地震が発生した場合、

① まず身の安全をはかりましょう。

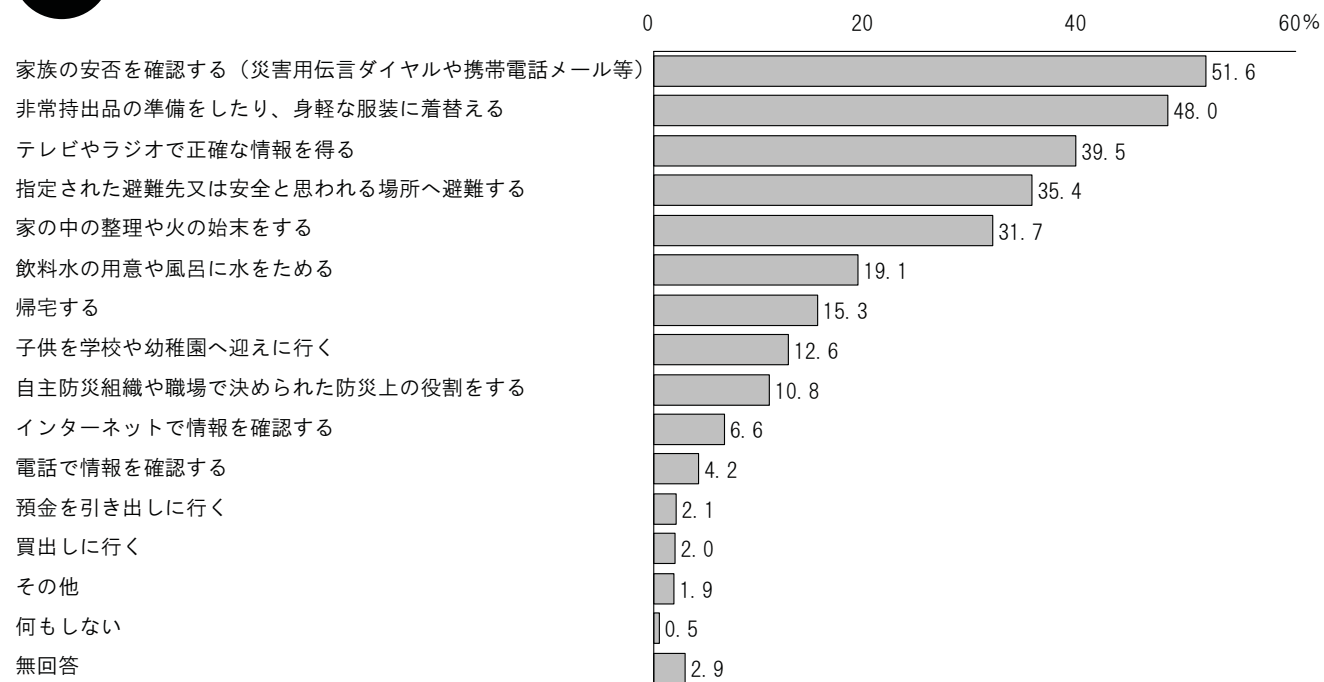
② 揺れがおさまったら火の元を確認してください。



突然地震が起こった場合、あなたは最初に何をしますか。

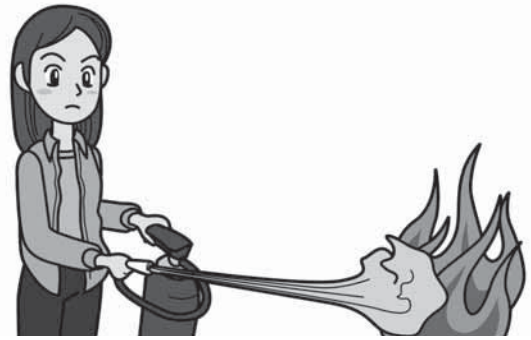


その次に何をしますか。



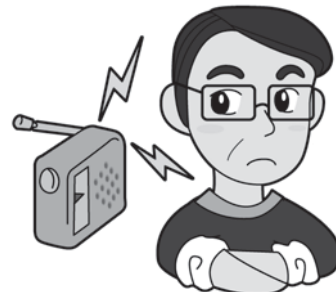
突然地震が起きたら？

- 激しい揺れは1分程続きます。あわてて外に飛び出さない。落ちついて冷静に。
- 地震発生直後は、わが身の安全確保が最優先！
- 本震のあとは余震が続けて発生します。
- 小さなケガなら家族で手当て。



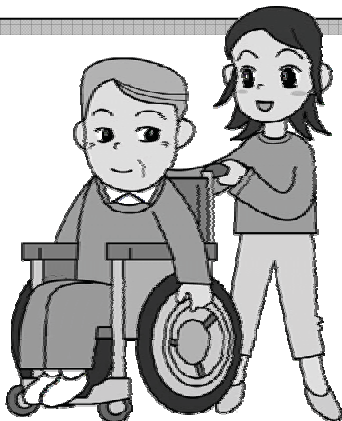
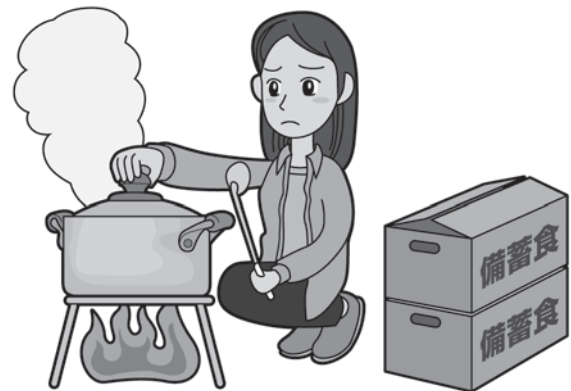
- 火源の周辺にものを置かない。
- 火災が発生しても、あわてずに初期消火。火元の完全確認。
- 近所に火の手は？消火活動は隣近所みんなに呼びかけ、協力を！

- 自宅を離れる時は、家族の安否、行き先などが分かるように立て看板や伝言メモを。
- 戸締まりを忘れずに。



- デマに注意。最新の正確な情報を入手しよう。
- 電話の使用は極力控える。安否情報は、「伝言ダイヤル171」や携帯電話の災害用伝言板などの利用。

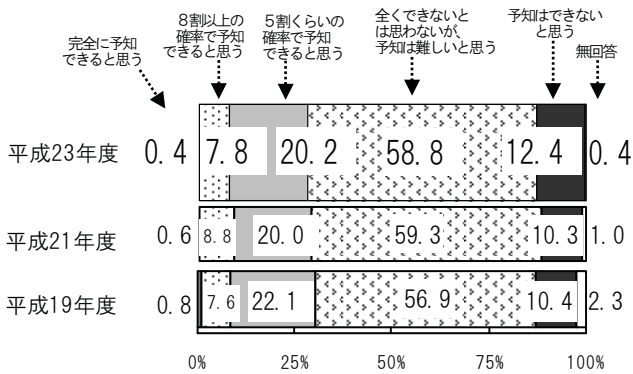
- 避難所は共同生活の場。決められたルールを守り、協力と助け合い。
- 体の不自由な方や負傷者などに心遣いを。



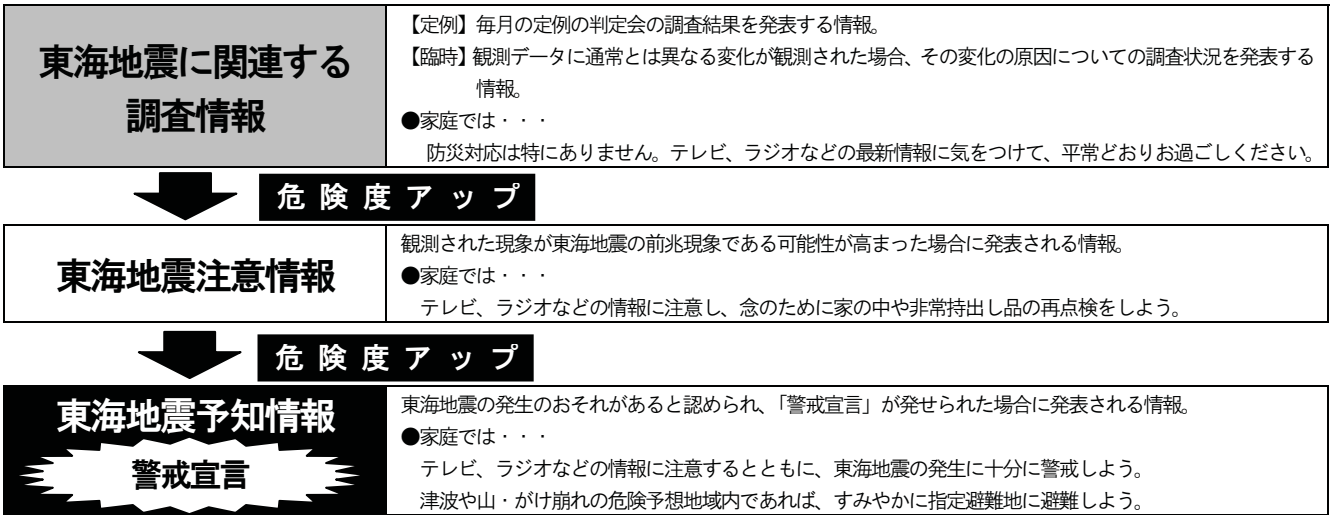
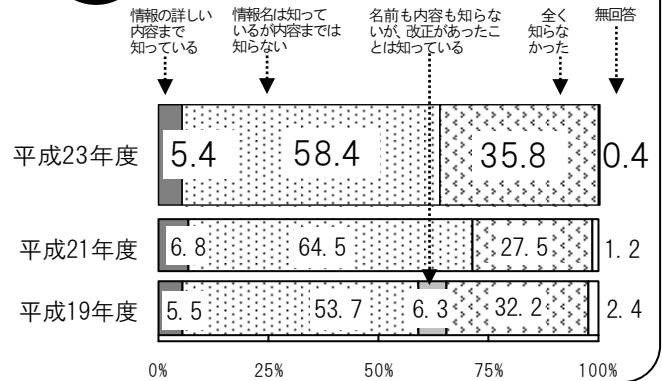
- 発災後数日は、物資の援助は期待できない。日頃の備えの大切さが分かる時。しばらくは非常持出し品や備蓄食で生活を。

東海地震が予知できた場合、 発生危険度に応じて3種類の情報が発表されます。

Q あなたは、現時点で東海地震は予知できると思いますか。

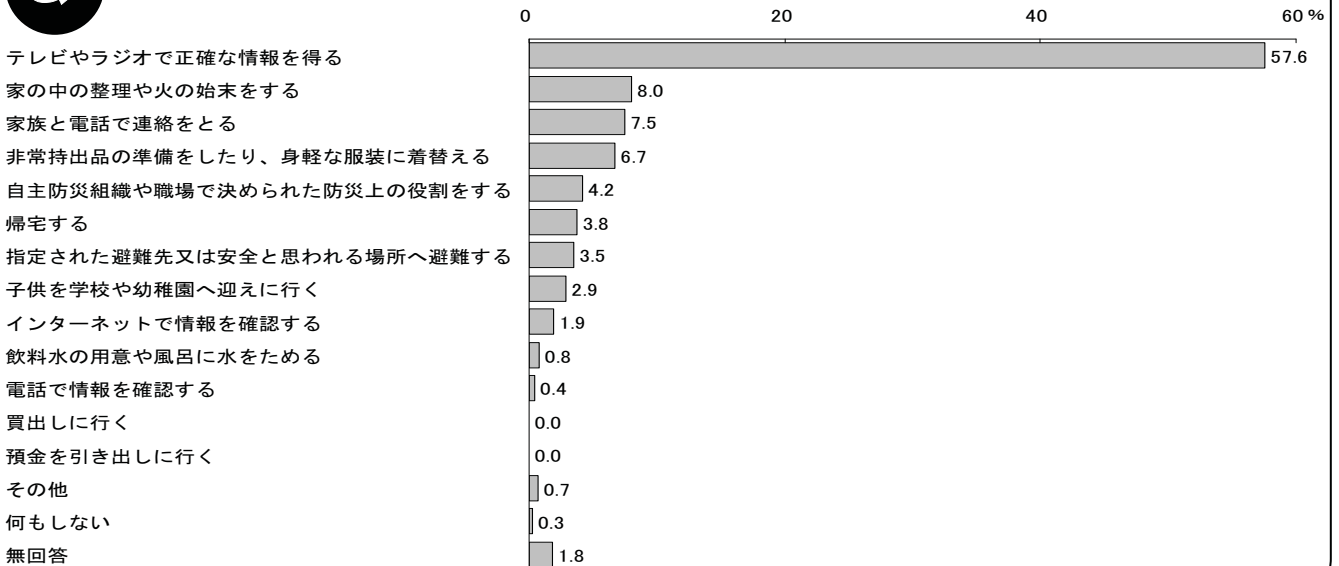


Q 東海地震に関する情報をご存知ですか。



※ 東海地震は必ず直前予知ができるわけではありません。
いつ地震が発生しても対応できるよう、日ごろから十分な備えを!!

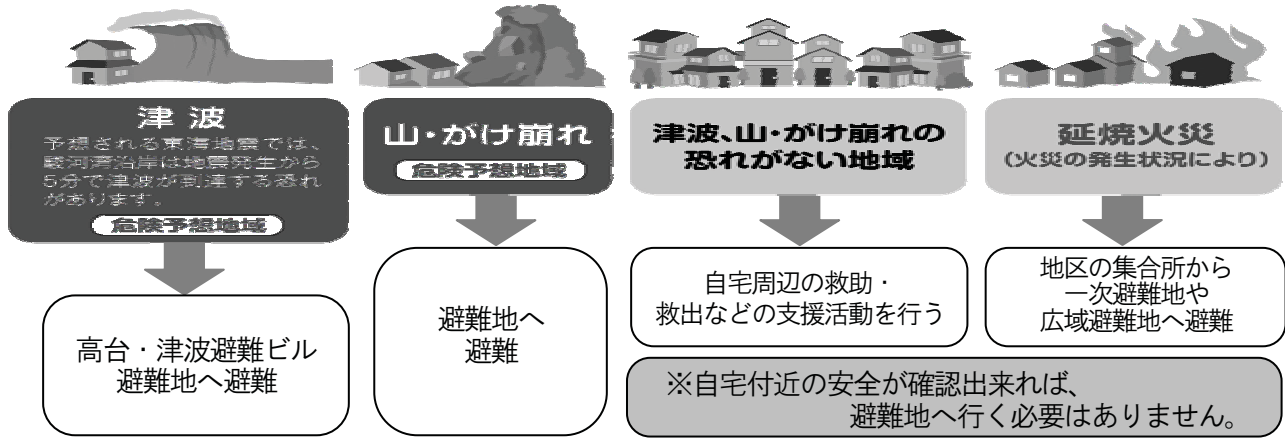
Q 警戒宣言が発せられたとき、あなたは最初に何をしますか。



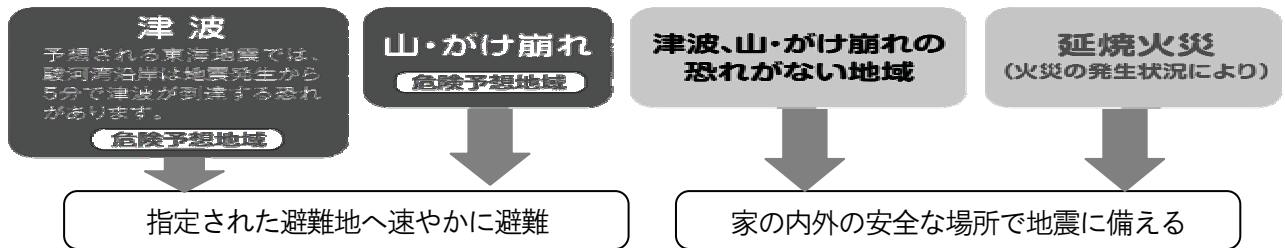
突然大きな地震が発生したら、 警戒宣言が発令されたら、あなたの避難先は？

自分の地域で「どのような被害が発生するのか」確認しておきましょう！

大きな地震が発生したら



警戒宣言が発令されたら



避難地＝津波や山・がけ崩れの危険予想地域の住民等の避難のために市町が指定した避難場所
 集合所＝火災時の一時的避難や一次避難地へ移動するときの集合場所
 一次避難地＝火災時に広域避難地に到達するまでの中継拠点
 広域避難地＝火災拡大時の最終避難場所

警戒宣言が発令されると…公共交通機関・ライフラインの状況

東海地震に関連する調査情報発表時

平常どおり利用（使用）可能

東海地震注意情報発表時

平常どおり利用（使用）可能

電話：利用者の急増等により回線数がパンクする輻輳(ふくそう)等が生じた場合は、必要に応じ一般通話を制限する。
 鉄道：長距離夜行列車及び貨物列車は強化地域内へ進入しない。

東海地震予知情報発表（警戒宣言発令）時

電気・ガス：使用可能 (できるだけ使わない。)	水道：使用可能 (普段から水をためておく。)	電話：必要に応じ一般通話制限。
バス：付近の安全なところまで 走行し、運行を中止する。	鉄道：最寄りの駅等付近の安全 なところまで走行し、 運転を中止する。	道路：緊急輸送路・避難路を 確保するため交通規制 がされる。車は徐行運転。

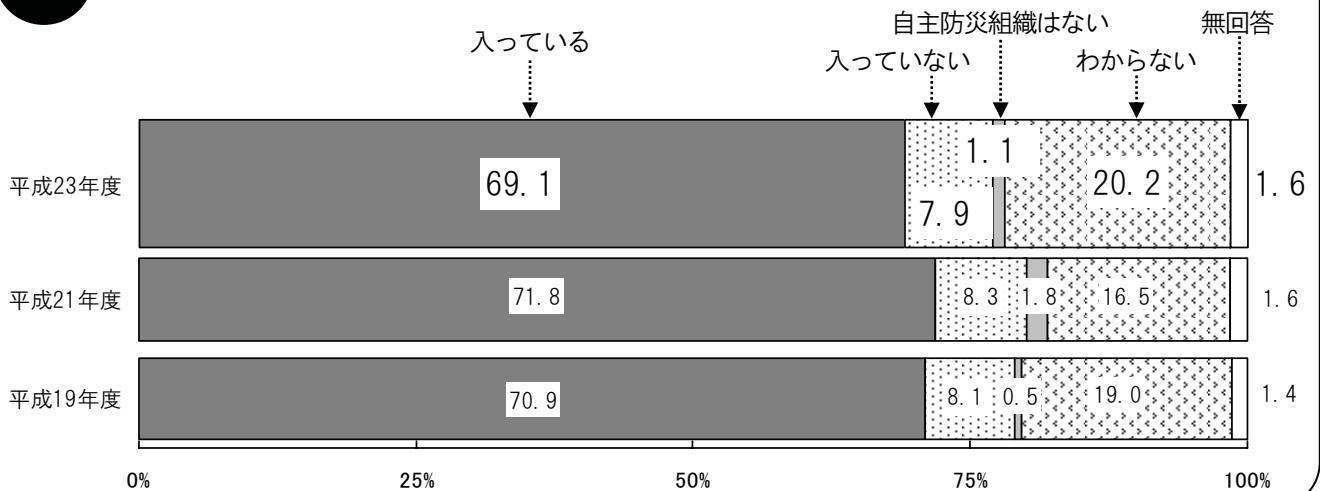
第3次地震被害想定によるライフラインの復旧想定

電気：発災直後には約34%が停電、系統の切替により通電範囲が拡大、応急復旧に約6～12日
 都市ガス：全域で供給停止、応急復旧に約30日
 上水道：発災直後には9割が断水、2日後には7割が断水、応急復旧に約30日
 下水道：排水困難な地域が多発、応急復旧に約30日
 電話：輻輳(ふくそう)により1週間程度電話がかかりにくくなるのが予想される。応急復旧に約12日

誰もが自主防災組織の一員であることを自覚してください。 防災対策をすすめるためには、 地域内での連携が大切です。



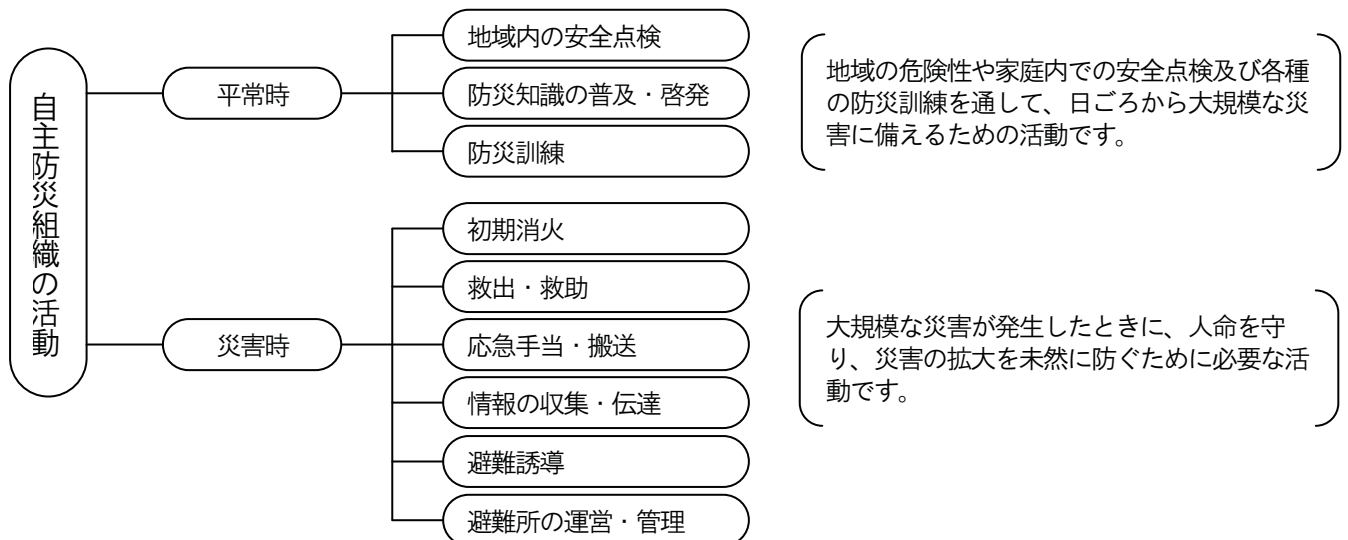
あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



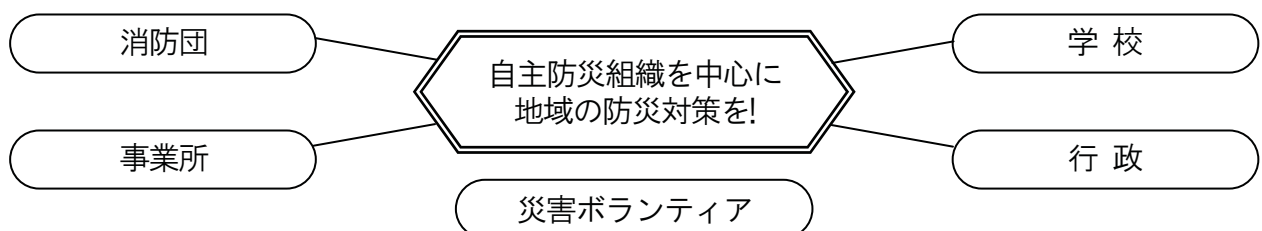
自らの命は自ら守る。自らの地域は皆で守る。県民一人ひとりが自主防災組織のメンバーです。

予想される東海地震から自分や家族を守るためには、地震に備えて普段から十分な準備をしておくことが大切です。しかし、大きな災害に立ち向かうときには、個人や家族の力には限界があります。隣近所の人たちが互いに協力し合い、防災活動に組織的に取り組むことが必要です。

災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織、これが**自主防災組織**です。

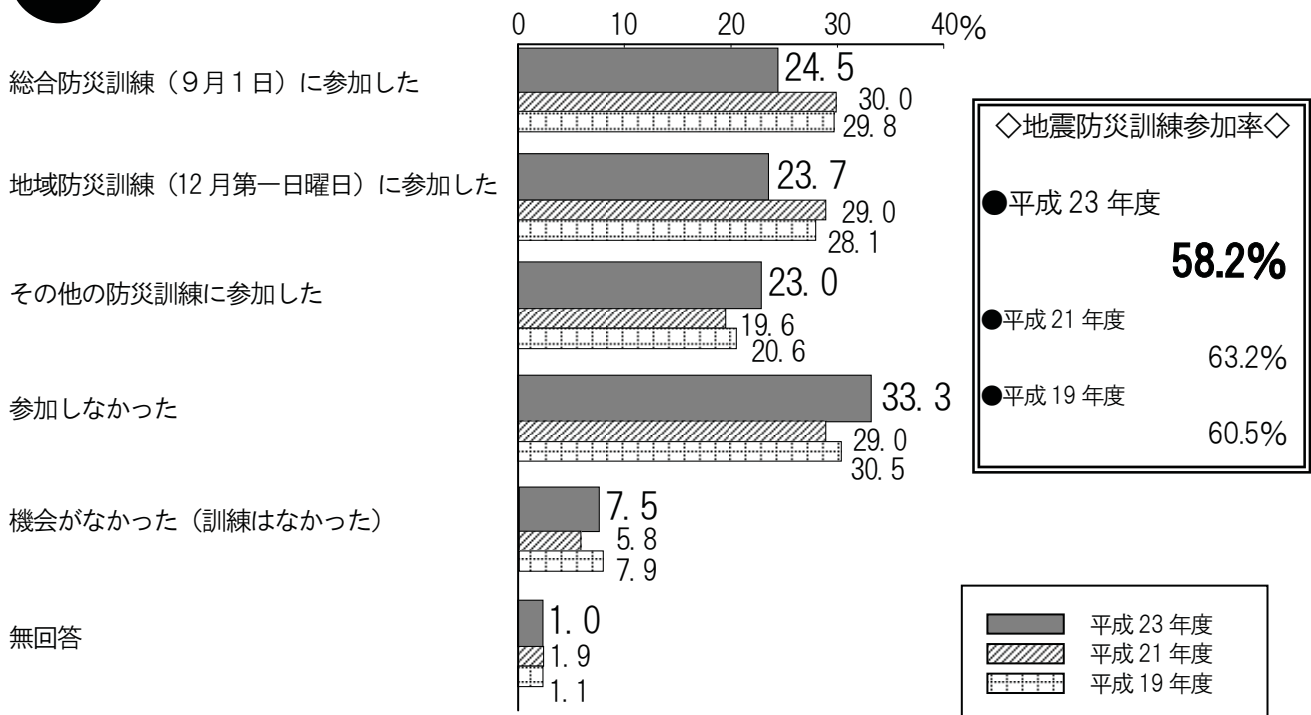


地域には防災に携わる様々な人たちがいます。いざという時には、お互いが協力し合い、一丸となって防災活動に取り組みましょう。



隣近所で声を掛け合い、9月1日の総合防災訓練、 12月の地域防災訓練に皆で参加しましょう。

Q 過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。



◆ 総合防災訓練（9月1日）（防災の日）

想定：東海地震の発生が予知されたことを想定（例年）

国・県・市町・各防災関係機関・自主防災組織が協力して実施します。東海地震注意情報発表時、警戒宣言発令時や発災時に、各家庭や地域の自主防災組織が計画している対策を行い、防災活動を身につけることを目標とします。

◆ 地域防災訓練（12月の第1日曜日）（地域防災の日）

想定：突然東海地震クラスの大地震が発生したことを想定

各市町単位で、自主防災組織を中心に地震発生後の避難、消火、救護など一連の対応訓練を行います。それぞれの地域の特性を生かした訓練を実施し、防災活動を身につけることを目標とします。

◆ 津波避難訓練

想定：突然東海地震クラスの大地震が発生し、津波警報が発令されたことを想定

県・沿岸の市町、各防災関係機関、自主防災組織が協力して実施します。住民に対する情報伝達、観光客等海浜利用者への避難指示、遭難者救助訓練、防潮水門閉鎖訓練等を実施し、防災活動を身につけることを目標とします。

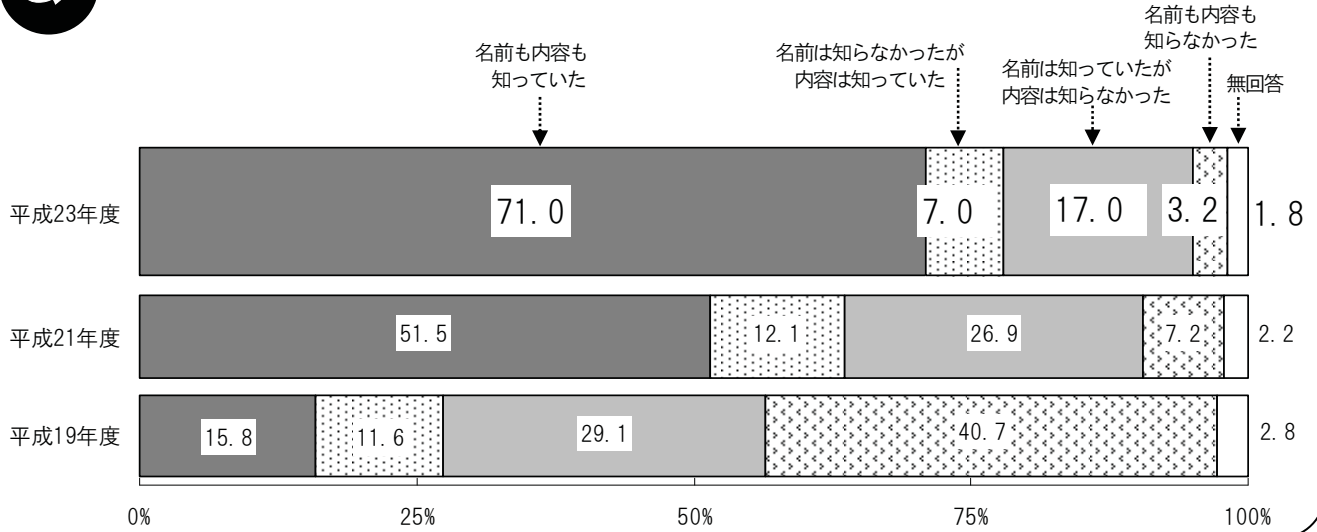
◆ 個別訓練

各自主防災組織において情報の収集伝達・救出救助・初期消火など、個々の訓練を行い、それぞれの行動を身につけることを目標とします。

緊急地震速報についてご存知ですか。



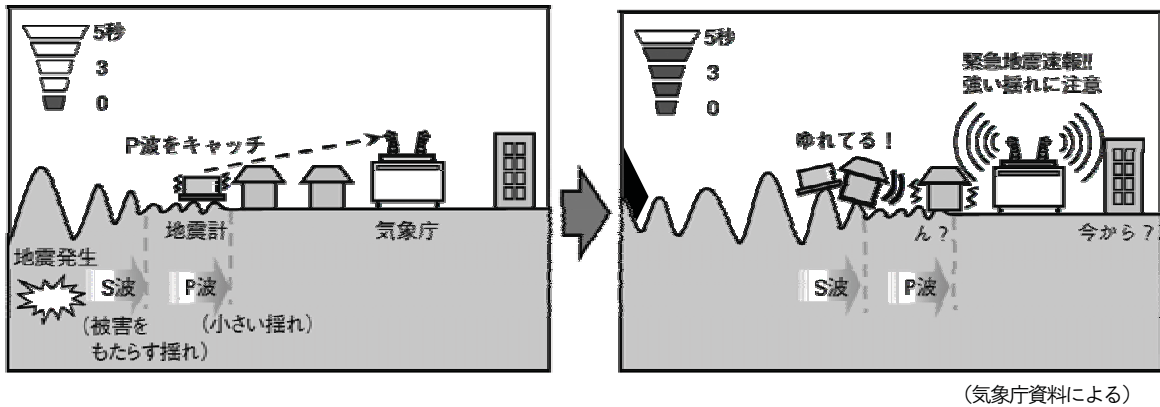
あなたは、緊急地震速報について知っていましたか。



緊急地震速報とは

緊急地震速報とは、地震による強い揺れが間もなく来ることをお知らせする情報です。大きな揺れが予想される地域に対して、テレビやラジオなどを通じて気象庁から発表されます。

緊急地震速報は、地震の揺れを震源に近いところで捉えてから発表される情報です。このため、緊急地震速報の発表から強い揺れが来るまでの時間は数秒から数十秒程度で、震源に近い場所では揺れに間に合わない場合があります。



家庭では

- ・頭を保護して丈夫な机の下などに隠れる
- ・あわてて外へ飛び出さない
- ・無理して火を消そうとしない

自動車運転中は

- ・あわててスピードをおとさない
- ・ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意を促す
- ・急ブレーキはかけず、緩やかに速度をおとす
- ・大きな揺れを感じたら、道路の左側に停止

人がおおぜいいる施設では

- ・係員の指示に従う
- ・落ちついて行動
- ・あわてて出口に走り出さない

「利用の心得」
 周囲の状況に応じてあわてずに
 まず身の安全を確保する！

平成23年3月11日 午後2時46分 東日本大震災発生

東日本大震災の特徴

- ・地震規模がマグニチュード9.0であり、国内観測史上最大
- ・東北地方から関東地方の太平洋側を中心に大規模な津波被害
- ・地震と津波による被害と原子力発電所事故などによる複合災害

◆各県の最大震度◆

- ・震度7 宮城県
- ・震度6強 福島県、茨城県、栃木県
- ・震度6弱 岩手県、群馬県、埼玉県、千葉県

**死者行方不明者
1万9千人超**

(警察庁まとめ、H23.12現在)

**ストック*被害額推計
約16.9兆円**

(内閣府、H23.6.24公表)



岩手県宮古市

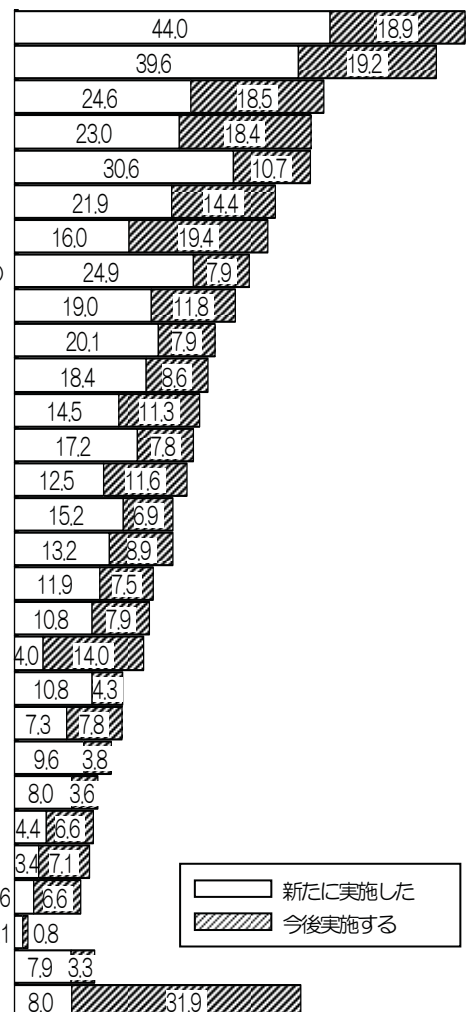
提供：宮古市役所

※ストックとは、建築物、ライフライン施設、社会基盤施設等をさす。



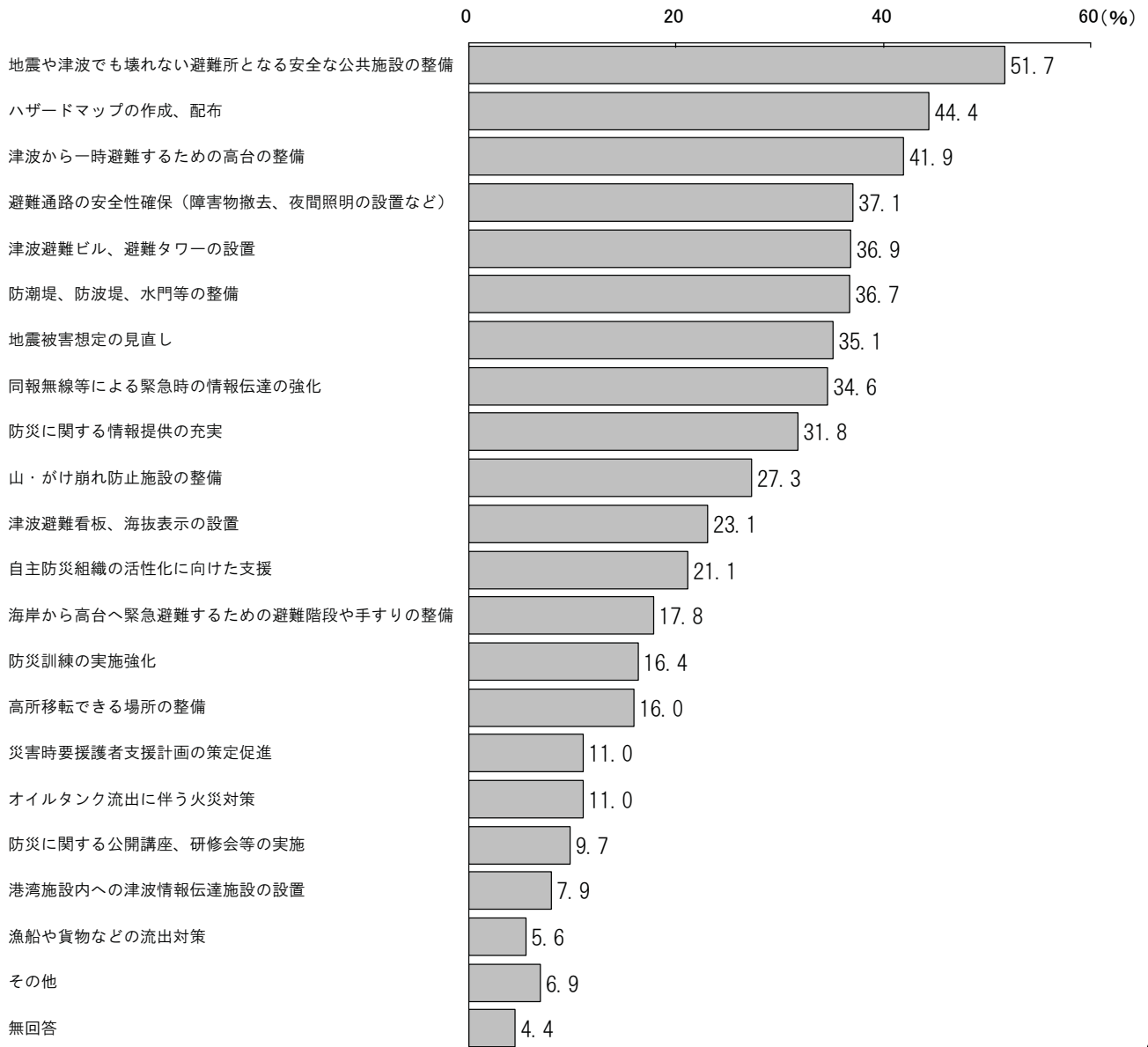
今回の地震を経験した直後に、防災対策に対する準備や行動で新たに実施したことがありますか。また、今後あらためて実施しようと考えていることがありますか。

- 食料・飲料水を備蓄した
- 非常持出品を用意した
- 家族が離ればなれになったとき落ち合う場所を決めた
- 家族との連絡方法を決めた
- 地震の時に避難する場所を決めた
- 割れたガラスから保護するためにスリッパ、運動靴などを用意した
- 家具が倒れないように固定した
- 自分の住んでいる地域の危険性を確認した（津波危険予想地域、山・がけ崩れ危険予想地域など）
- 家の中で「とっさ」に逃げる場所を決めた
- 棚の上の重いものをおろした
- 風呂にいつも水を入れるようにした
- 自宅や勤め先付近の安全な避難経路を確認した
- ガスを使わないときには元栓を締めるようにした
- 防災についての家族の役割を話しあった
- 火気器具のまわりを整理するようにした
- 防災訓練に積極的に参加した
- 家具を何も置いていない部屋を寝室にした
- 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした
- ガラス飛散防止をした
- 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものにした
- 寝室の家具を移した
- 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた
- プロパンガスボンベが倒れないようにした
- ブロック塀の点検や転倒防止を施した
- 耐震診断を実施した
- 耐震補強を実施した
- その他
- 特に何もしていない
- 無回答





東日本大震災の状況を踏まえて、今後、県や市町に対して要望することがありますか。



「減災社会」の実現に向けて

震災は私たちの努力で軽減できる

阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊のほか、家具の転倒や落下物、ガラスの破損などにより、多くの方がケガをし、命を落とされました。

また、東日本大震災では、東北地方から関東地方の太平洋側を中心に巨大な津波が発生し、15,800人超の方の命が奪われ、今もなお約3,500人の方が行方不明です。（平成23年12月現在）

東海地震は「いつ起きても不思議ではない」といわれています。東海地震が起きた時、自宅で命を落とさないように、ケガをしないようにするにはどうすればいいのか、今回の調査結果を参考に、皆さんも考えてみましょう。

富国 有徳の理想郷ーしずおか



Shizuoka Prefecture

静岡県危機管理部危機情報課

電話 054-221-2644

危機情報課メールアドレス

boujou@pref.shizuoka.lg.jp

危機管理部ホームページアドレス

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/>

紙へリサイクル可

この印刷物は3,000部作成しています。